

平成 2 2 年度

事業計画

## 平成 22 年度 事業 計画

### 1 . 助成事業

#### (社) 平城遷都 1300 年記念事業協会 県民活動支援事業助成金

##### 元興寺禅室の屋根裏探検 日本最古の現役建築部材の公開

世界遺産元興寺の極楽堂と禅室は、飛鳥寺から運ばれた部材を残す貴重な古建造物である。近年の研究成果でそのことが具体的に証明され、今も飛鳥・奈良時代の部材が現役で働いていることも判明した。しかし、その多くは屋根裏に登らないと見学できないものであり、これまで一般に公開することはできなかった。

今回、遷都 1300 年事業にあわせて、一時的ながら一般に公開するために仮設の設備を設営し、古建築の裏側を実際に見学してもらおうという試みである。

そこには、飛鳥・奈良時代はもとより、平安・鎌倉～昭和（戦時中）の修理に至る様々な部材が組み合わさって残っており、古建築の歴史を直接的にうかがうことができる貴重な体験になると考えている。

期間 平成 22 年 10 月 17 日（日）～ 11 月 13 日（土）

#### 期間中の講演会

##### 「年輪年代法で判明した元興寺の変遷」(仮題)

日時 平成 22 年 10 月 24 日（日） 13:30～15:00

場所 ならまちセンター 市民ホール

講師 光谷拓実氏（総合地球環境学研究所 客員教授）

##### 「元興寺禅室の昭和大修理」(仮題)

日時 平成 22 年 10 月 31 日（日） 13:30～15:00

場所 ならまちセンター 市民ホール

講師 鈴木嘉吉氏（(財) 仏教美術協会理事長）

平成 22 年度事業予算額

2,650 千円

## (財)トヨタ財団 研究助成

### アジア隣人ネットワークプログラム

「修復技術の伝承による壁画保存力向上プロジェクト 韓国の文化遺産を救う」

通度寺<sup>つうどじ</sup>霊山<sup>れいざん</sup>殿<sup>でん</sup>壁画<sup>びっくわ</sup>と極楽庵<sup>ごくらくあん</sup>寿世<sup>じゆせい</sup>殿<sup>でん</sup>壁画<sup>びっくわ</sup>を主たる修復対象として、膠<sup>にかわ</sup>を用いた修復技術の伝承に取り組む。また、韓国の建築彩色では土壁<sup>つちかべ</sup>壁画とともに木地に描かれた丹青<sup>たんせい</sup>の現状維持修復がこれからの大きな課題である。

本プロジェクトは平成 22 年 10 月末で完了するが、日韓の修復ネットワークの発展を目指し、壁画とともに丹青の剥落止めを行うプロジェクトを立ち上げる道筋をつけておきたい。

平成 22 年度事業予算額 1,860 千円

(プロジェクトリーダー 山内 章 / 彩色資料修復室)

## 2. 受託調査研究事業

### (1) 研究部

#### 文化庁受託事業

平成 22 年度『発掘された日本列島 2010』展

文化庁(記念物課)と開催各館とが主催する「日本列島」展が、平成 20 年度から企画競争を前提とする公募形式になり、平成 22 年度についても研究部で受託の方向で検討を重ね、関係書類を作成し応募した。

文化庁の審査の結果、3 月 4 日付で平成 20・21 年度に引き続き当該事業の請負予定者となった旨通知があった。

業務内容は、列島展にかかる出陳物の集荷・納品に係る輸送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプション等の作成、ポスターやチラシ等の印刷・配布、図録原稿の編集と関連資料の管理のほか、開催各館との調整など多義にわたる。

すでに内示が出たことにより、2 年間の経験に基づき出陳物や開催各館の下見、資料借用機関との調整、図録原稿の調整やパネル作成準備に取り掛かっている。

開催館と開催期間は次のとおりであるが、平成 20 年度 4 館、平成 21 年度 5 館の開催館であったが、平成 22 年度は 6 館での開催となることから、江戸東京博物館の開催が 2 週間早くなり作業や輸送日程は厳しくなる。

なお本展は中核展示とテーマ展示の 2 部構成であり、中核展示には福島県から沖縄県までの旧石器～近代の資料が、テーマ展示には「高松塚古墳・キトラ古墳」に関する資料が出陳される予定である。

東京都江戸東京博物館	6月5日(土)～7月25日(日)	7週間
青森県立郷土館	8月3日(火)～9月5日(日)	5週間
宮城県多賀城市埋蔵文化財センター	9月14日(火)～10月11日(月)	4週間
大分県立歴史博物館	10月22日(金)～11月19日(金)	4週間
香川県立ミュージアム	11月27日(土)～12月23日(木)	4週間
大阪歴史博物館	1月12日(水)～2月28日(月)	7週間

## (2) 保存科学研究室

### ・分析業務など

大阪府吹田市	国立民族学博物館	保存処理材料の劣化調査
鳥取県倉吉市	長谷寺	絵馬の顔料分析
愛知県豊橋市	馬越長火塚古墳	金属製品成分分析
大阪府太子町	近つ飛鳥博物館	大修理の保存状態調査

## (3) 人文科学研究室

奈良県生駒市	宝山寺	文化財調査整理事業(継続中)
奈良県桜井市	長谷寺	文化財調査整理事業(継続中)
奈良県	(財)大和文化財保存会	奈良県内寺社所有の版木調査(継続中)
大阪府羽曳野市	野中寺	小誌作成に伴う什宝資料調査(継続中)
大阪府泉南市		文化財状況調査(継続中)
大阪府堺市		ふるさと再生事業(継続)
香川県坂出市	白峯寺	遍路寺院の史跡指定のための文化財調査

継続して行っている長谷寺・宝山寺などの什宝類文化財調査は平成22年度も引き続いて実施する。長谷寺は、通算5冊目となる整理事業報告書として『豊山長谷寺拾遺』第四輯之一宋版一切経を編集予定である。

大阪府泉南市の文化財状況調査は6年度目にあたり、羽曳野市野中寺調査は、4年度目の調査を予定している。香川県白峯寺の文化財調査は平成22年度に補足調査を実施予定である。

なお、奈良県内寺社所有版木の調査をおこなう(財)大和文化財保存会事業は、平成22年度も継続予定である。

## (4) 考古学研究室

奈良県橿原市	奈良県立橿原考古学研究所	
		緊急雇用創出事業による出土遺物整理活用事業
奈良県奈良市		埋蔵文化財出土遺物整理作業

奈良県橿原市 萩之本遺跡発掘調査及び整理事業  
 奈良県橿原市 南曾我遺跡発掘調査報告書作成（協議継続中）  
 和歌山県高野町 高野山大学（松下講堂黎明館） 発掘調査出土遺物整理

緊急雇用創出事業として、橿原考古学研究所及び同附属博物館で平成21年度から実施している出土遺物整理活用事業は、平成22年度も継続する。

同じく奈良市から緊急雇用創出事業で平成21年度に行った「出土遺物洗浄・マーキング作業」を発展させ、遺物整理作業に移行する。

橿原市萩之本遺跡の発掘調査は、3月中旬に調査を開始し5月中旬に終了する見込みである。終了後は整理事業を行い、平成22年度末に調査報告書を刊行する。

同市南曾我遺跡の発掘調査は、平成20年度発掘調査を終了し、平成21年度に発掘調査報告書を刊行する予定であったが、諸般の事情により発刊できなかったため橿原市と平成22年度刊行に向け協議を継続している。

高野町は高野山大学松下講堂黎明館建設に先立ち、和歌山県が行った発掘調査で出土した遺物の整理を3ヵ年計画で行い、初年度は完了し報告書を提出した。

#### （5）伝世資料修復室

沖縄県本部町	海洋文化館	館蔵資料の修復
山口県周防大島町		久賀の諸職用具の保存処理
奈良県川上村	玉龍寺	寺宝の修復と移動

沖縄県本部町の海洋文化館所蔵資料の修復は、海洋文化館のリニューアルに伴い館蔵資料の修復・移動を行う平成24年度までの継続事業である。平成22年度は、館蔵資料（大型カヌー）の現地における修復事業を予定している。

山口県周防大島町久賀の諸職用具の保存処理は、山口県大島の北中部に位置する旧久賀町に所在する歴史民俗資料館所蔵の重要有形民俗文化財久賀の諸職用具（石工、鍛冶屋、船大工、桶屋、機屋他の諸道具）の保存処理を予定している。

奈良県川上村の玉龍寺寺宝の修復と移動は、寺院の移転に伴う、寺宝の移動と仏像などの修復を行う。

#### （6）記録資料調査修復室

愛知県名古屋市	名古屋大学	古文書の修復
静岡県島田市	島田市立博物館	古文書の修復
高知県安芸市	安芸市立歴史民俗資料館	絵図の修復
千葉県佐倉市	国立歴史民俗博物館	所蔵資料の状態調査
千葉県佐倉市	国立歴史民俗博物館	所蔵資料の修復

文書・絵図類の修復としては漉嵌法すきばめほうを中心に、継続して修復を進めている国立歴史民俗博物館、名古屋大学、島田市立博物館、安芸市立歴史民俗資料館などを予定している。

調査事業としては、平成 18 年度より開始した国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を引き続き行ない、平成 21～23 年度は金沢地方の民俗資料の状態調査を進めている。また、堺市立図書館データベース作成事業の一環で所蔵資料および絵図面類の部分修復を進める予定である。

## (7) 彩色資料修復室

京都府京都市	宮内庁京都事務所	京都御所杉戸絵の修理工事
鳥取県倉吉市	長谷寺 <small>はせでら</small> の絵馬群保存会	倉吉市長谷寺奉納絵馬群の映像記録
福井県福井市	願念寺 <small>がんねんじ</small>	願念寺本堂天井絵の保存修理
大阪府河内長野市	松林寺 <small>しょうりんじ</small>	松林寺所蔵不動明王三尊の保存修復
兵庫県神戸市	敏馬神社 <small>みぬめ</small>	船絵馬の保存修理
岐阜県本巣市 <small>もとす</small>	本郷自治会	法瑛寺 <small>ほうえいじ</small> 観音堂厨子保存処理
新潟県燕市	燕市教育委員会	四季耕作図絵馬の保存修理
富山県砺波市 <small>となみ</small>	砺波市郷土博物館	旧中越銀行本館天井金唐革紙 <small>きんからかわし</small> の修理工事
大阪府東大阪市	春日神社	春日神社本殿修理報告書の作成

京都御所杉戸絵は平成 20 年度に 8 面、平成 21 年度に 30 面を修理した。引き続き平成 22 年度も修理工事の受託を予定している。

建造物彩色は、福井市で真宗寺院本堂の天井絵、本巣市で厨子装飾彩色等の修理を、また、修理を完了した東大阪市の春日神社本殿の修理報告書の製作を受託する予定である。

奉納絵馬は、平成 21 年度に続き倉吉市長谷寺奉納絵馬群の映像記録を行う予定で、修理では、朝日新聞文化財団の助成を受けた神戸市敏馬神社の船絵馬の他、複数の事業を予定している。

## (8) 木器保存研究室

岡山県岡山市	岡山県古代吉備文化財センター	
		岡山後楽園 <small>かこう</small> 花交 <small>いけもくひかん</small> の池木樋管保存事業
奈良県橿原市	奈良県立橿原考古学研究所	
		横田堂垣内遺跡出土木製品の保存処理
大阪府堺市	大阪府教育委員会	久宝寺遺跡出土木製品保存処理委託(その2)
山口県山口市	山口県埋蔵文化財センター	
		田ノ浦遺跡 <small>たのうら</small> 出土ドングリピットの保存処理

岡山県岡山後楽園花交の池より出土した江戸時代(元禄期)の全長 18mの木樋管のうち遺存状態の良好な6m分を平成 21 年度から 3 ヶ年事業として保存処理を行っており、平成 22 年度は木樋管の PEG 含浸と表面処理を実施する。

平成 20 年度から継続している奈良県大和郡山市横田堂垣内遺跡出土の割り抜き井戸枠は、平成 21 年度に PEG 含浸を終了し、平成 22 年度は亀裂部分の補填作業等の仕上げを行い、保管台を作製する。

大阪府八尾市久宝寺遺跡より出土したケヤキ材の作業台を平成 21 年度に引き続き PEG 含浸や復元等の保存処理を実施する。

平成 21 年度末に山口県熊毛郡上関町田ノ浦遺跡で取り上げ作業を行った縄文時代(後期～晩期)のドングリの貯蔵穴の保存処理を実施する予定である。

## (9) 金属器保存研究室

奈良県奈良市 東大寺 国宝東大寺金堂鎮壇具の保存修理

京都府京都市 京都大学総合博物館

重要文化財椿井大塚山古墳出土金属器の保存修理

兵庫県姫路市

重要文化財宮山古墳出土金属製品の保存修理

広島県福山市 広島県立歴史博物館

重要文化財草戸千軒町遺跡出土金属製品の保存修理

大阪府吹田市 関西大学考古学研究室 珠金塚古墳出土短甲の保存処理

愛知県豊橋市 馬越長火塚古墳出土金属製品の保存処理

国宝の保存修理として平成 22 年度から 24 年度まで、東大寺金堂鎮壇具(金銀荘大刀など、奈良時代)の修理を行う。

重要文化財では、平成 22 年度から 2 ヶ年で京都大学所蔵・椿井大塚山古墳(古墳時代前期)出土銅鏡および鉄鏃の修理を予定、また平成 21 年度から継続して平成 22 年度も兵庫県姫路市・宮山古墳(古墳時代中期)出土金属製品の修理、および、広島県福山市・草戸千軒町遺跡(中世)出土金属製品の修理を行う。

その他、関西大学所蔵・珠金塚古墳(古墳時代中期)出土三角板鋌留短甲は平成 22 年度から 2 ヶ年の予定で、また、平成 20 年度から 3 ヶ年計画で調査および保存処理を行っている愛知県豊橋市・馬越長火塚古墳(古墳時代後期)出土遺物は、平成 22 年度が最終年度となる。

## (10) 土器修復室

奈良県奈良市 東大寺 国宝金堂鎮壇具出土漆箱の保存修理

兵庫県姫路市 重要文化財宮山古墳出土玉類の保存修理

奈良県奈良市 奈良国立博物館 館所蔵 縄文土器の修理

国の指定文化財の修理としては平成 22 年度から 3 ヶ年計画で奈良県奈良市東大寺の国宝金堂鎮壇具出土品の保存修理が始まり、平成 22 年度は漆皮箱片とガラス玉類・琥珀玉類の修理を予定している。

また、平成 20 年度から継続して兵庫県姫路市の重要文化財宮山古墳出土品の保存修理を行っており、平成 22 年度は玉類の修理を予定している。

その他、奈良国立博物館の館所蔵漆塗り縄文土器の保存修理を予定している。

当室では博物館向けの復元模造品の制作も継続して行っており、平成 22 年度は株式会社乃村工藝社より大阪府高槻市の今城塚古代歴史館向けの展示用の模造品制作を行う予定である。

受託調査研究事業予算額 440,000 千円

### 3. 自主調査研究事業

#### (1) 対外研究交流の推進

#### (2) 秋季特別展の開催

「元興寺の七不思議」

平成 22 年 10 月 24 日(日)～11 月 7 日(日) (宗)元興寺と共催

#### (3) 調査研究開発および研究成果の発表

定期刊行物

『元興寺文化財研究所研究報告 2009』(1,300 部)

『元興寺文化財研究所研究報告 2010』(1,300 部)

秋季特別展図録(1,500 部)

#### (4) 民俗資料の収集

#### (5) (社)平城遷都 1300 年記念事業協会 県民活動支援事業助成金 元興寺禅室の屋根裏探検(日本最古の現役建築部材)の公開

自主調査研究事業予算額 8,500 千円

### 4. 坪井研究奨励金

候補者(個人及び団体)の選考



## 5. その他

### 科学研究費補助金関係等

平成 22 年度科学研究費は、継続分 9 件で、13,900 千円の研究課題が内定している。その他、新規に 23 件（平成 22 年度総額 113,184 千円）の申請を行っており、審査を待っている。以下に、継続内定分について研究種目毎に区分し、課題名、研究期間、研究代表者、平成 22 年度交付予定金額の順に記す。

#### 継続課題（内定分）

##### 基盤研究(A)海外

「日韓における保存処理後木製品の経年変化と保管管理の比較研究」

平成 21～25 年度 伊藤健司 3,100 千円

##### 基盤研究(B)一般

「文化財保存修復に用いる膠の生産に関する研究～牛皮膠ぎゅうひにかわと魚膠さかなにかわを対象として～」

平成 20～22 年度 山内 章 1,100 千円

「日本中世の葬送墓制に関する発展的研究」

平成 21～25 年度 狭川真一 2,800 千円

##### 基盤研究(C)一般

「指定品の展示・収蔵状況の実態調査～考古資料を中心として～」

平成 19～22 年度 岡本広義 1,000 千円

「木製横櫛の用材選択と製作技術に関する基礎調査」

平成 20～22 年度 木沢直子 1,000 千円

「中近世庶民信仰絵画の自然科学的・実証的研究」

平成 20～22 年度 高橋平明 1,100 千円

「民俗資料の塩分劣化とその対処法の研究

～博物館実践型保存処理法の確立を目指して～」

平成 21～23 年度 石井里佳 1,000 千円

##### 挑戦的萌芽研究

「ゲル状態変化を用いた含水保存処理法の新規開発」

平成 21～22 年度 山田卓司 2,000 千円

##### 若手研究(B)

「氏寺を中心とした中世地域社会構造の研究」

平成 20～22 年度 坂本亮太 800 千円

#### 【新規申請中課題】

基盤研究(A)一般	3 件	萌芽研究	2 件
基盤研究(B)一般	2 件	若手研究(A)	2 件
基盤研究(C)一般	10 件	若手研究(B)	4 件